

外来魚駆除し生態系守ろう

24.8.19

信

外来魚駆除を目的に開かれた釣り大会



御池で釣り大会 きょうまで

高原町の御池・皇子港で18日、外来魚を駆除するための釣り大会が開かれた。町内外から家族連れなど約60人が趣味を兼ねて参加し、釣果を競った。19日も行われる。

御池では、ブラックバスやブルーギルなどの外来魚が繁殖。アユやヤマメ、ワカサギなどの在来魚を捕食する被害が出ている。釣り大会は御池の生態系を守ろうと、小林高原野尻漁業協同組合（丸田毅代表理事組合長）が毎年実施しており、今年で7回目。

参加者は周囲の山々の雄大な景色を楽しみながら、湖岸から釣り糸を垂らし、外来魚を釣り上げた。大会終了後、検量を行い、上位者には景品を贈呈。初日はブラックバス10匹、ブルーギル672匹の釣果があり、夫婦で238匹釣り上げる人や、体長78センチの大物バスをヒットさせた人もいた。魚は同漁協が引き取り、処分するという。

同漁協の丸田代表理事組合長は「最近、外来魚が減ってきた」と話も聞く。（釣り大会は）地道な取り組みだ

が、今後も続けていきたい」と話していた。

19日は、誰でも無料で参加できる。釣り竿や仕掛け、餌

は自分で準備する。開始時間は決まっていないが、検量は午後2〜3時に行う。参加賞、景品がある。雨天決行。